

令和2年度 施策評価シート

■第5次粕屋町総合計画の体系

まちづくりの目標 (施策の大綱)	基本目標1 つながりと交流を深め、心豊かな人を育む協働のまち			
	1 地域のつながりを大切にしまちづくり			
施策名	(2) 人と地域が輝くまちづくり活動の推進			
施策コード	1-1-2	施策構成	3 事務事業	決算額 7,926 (千円)

■目標／指標の達成度

基本計画に掲げる目標／指標			単位
①	実感指標	まちづくりに参加したいと思う市民の割合	%
②	客観指標	ボランティアセンター登録者数(協働のまちづくり課)	人
※ ②'	客観指標	まちづくり活動相談件数(協働のまちづくり課)	件/年
③	客観指標	まちづくり活動団体支援数(協働のまちづくり課)	団体

アウトカム／成果目標の進行管理

	当初値	28年度末	29年度末	30年度末	元年度末	2年度末	目標値	達成度	変更目標値	変更年度
①	28.9	30.4	37.0	33.3	38.9	—	↗	—		
②	698	685	—	—	—	—	750	—		
※ ②'	—	—	25	30	26	0	40	0%		
③	7	9	8	6	6	4	15	0%		

※ ボランティアセンターの利用は29年5月末を以って終了し、翌6月からは、まちづくり活動支援室を開設しました。
ボランティアセンターの終了に伴い、まちづくり活動支援室における「まちづくり活動相談件数」を客観指標としています。

■施策における総括

前年度までの課題	まちづくり活動団体同士の更なる交流や新たな助成金制度によって、今までとは違った活動を展開できるよう進めていく必要がある。
今年度の取り組み(成果、効果)	コロナ禍で各研修会等が中止となり、団体活動が思うように実施出来なかった。まちづくり活動支援事業に関しては、助成金の交付団体に対して資金調達や事業の目標達成に向けた意識付けを行い、団体の自主性及び自立性を高めた。また、ボランティアのマッチングを受け付けることができず、まちづくり活動相談件数は0件となっているが、まちづくり活動支援室登録団体に対して取材やヒアリングを行い、団体が抱えている課題を共有し、積極的に相談支援を行った。
次年度以降に改善すべき課題	コロナ禍でボランティアやまちづくり活動の制限が続いており、活動の継続や存続が難しくなりつつある。活動へのモチベーションを維持させるとともに、他地域での事例を参考にコロナ禍でもできる活動の方法を模索し、助言を行う。また、アフターコロナに向けた取組を考え、活動の活性化につなげる。

■総合計画の進行管理

(1) 施策実現への取り組み		(2) 施策実現への進捗状況	
○	①着実に取り組まれており評価できる。		①計画以上に進んでいる。
	②取り組まれているが、まだ改善の余地がある。		②計画どおり順調に進んでいる。
	③取り組みが不十分であり対策が必要である。	○	③進んではいるが、スピードが遅い。
	④取り組みがなされていない。		④進捗が見られない、または後退している。